

職員アンケートに寄せられた意見＜概要＞

1 アンケート実施概要

- (1) 実施時期 令和4年1月
 (2) 対象者 県立図書館職員42名（常勤、非常勤問わず全員）
 (3) 回答者内訳

職 種	回答 人数	勤務歴		
		1～5年未満	6～10年未満	10年以上
行 政	7	6	－	1
学校図書館※	6	4	－	2
学校事務	3	2	1	－
教 員	3	3	－	－
司 書	1	－	1	－
再任用	1	－	－	1
会計年度任用職員	20	7	1	12
計	41	22	3	16

※学校事務のうち、学校図書館勤務を経て県立図書館に勤務する者を指す。

2 意見概要

- (1) 20年後の群馬県立図書館をどのような図書館にしたいですか？
 あるいは、20年後に群馬県立図書館がどんな図書館であってほしいですか？

◆方向性・あるべき姿

- ・県内の地域間格差を是正することは、県の役割。（行政）
- ・県内全域を視野に入れたサービスの充実、遠隔地に住む県民も恩恵が受けられるサービスを。（学校図）
- ・県立図書館のサービスを平等かつ迅速に受けられることで全ての県民が都市部に劣らぬ学習機会を得られる。（学校図）
- ・住む地域で格差がでないよう、すべての県民に平等に情報を得られる機会を。（会年）
- ・県立図書館が「研究者や県内図書館のための図書館」となっていることを願う。（行政）
- ・県内の図書館と市井の研究者を支えることこそ、県立のアイデンティティだと思う。（行政）
- ・県立としての役割・機能（高度専門的情報サービスの提供、市町村・学校支援、郷土資料の収集保存）に徹した図書館であってほしい。（学校図）
- ・場所を提供できる図書館（メイカースペース、ラーニングコモンズ）に。（学校図）
- ・イベント等が盛んに行われることを通じて、県民の交流の場になる図書館に。（会年）
- ・どういった図書館にするかという議論は、教育行政の中で社会教育にどういった役割を期待するか、社会教育行政の中で図書館に何を担わせるかということ。（行政）

- ・成長する施設、柔軟に変化し続けられる施設。（学校図）
- ・新しい考えを生み出していくことが求められるこれからの時代に、力になれるものの一つに図書館がある。（教員）

◆役割・機能

<資料の収集・保存・活用>

- ・県内図書館が収集した資料の最終保存館。（司書）
- ・群馬県のデポジット・ライブラリーとして所蔵資料の永久保存。（再任用）
- ・県内随一の書籍（紙）の博物館。（学校事）
- ・県域デジタルプラットフォームとして群馬に関する情報の保存・発信拠点。（学校図）
- ・郷土資料の網羅的デジタル化、発信。（行政）
- ・県内公共機関作成資料のデジタルデータでの収集・提供。（学校図）
- ・県立図書館のデジタル資料は、郷土資料、レファレンス資料、データベースに絞る。（学校図）
- ・議会史や年報が電子化される中、図書館の収集方法が問われている。地域資料を担うのは県立の役目。（学校図）
- ・資料デジタル化により県内図書館、役所、他の文化施設との情報連携を図る。また、その総合窓口となる。（学校事）

<市町村支援・学校図書館支援>

- ・未設置町村への直接サービスを行うことも必要。（再任用）
- ・未設置町村への県立の支援は縮小方向であるが、環境改善は望めない。町村一括貸出に代わる何らかの支援を考える必要がある。（行政）
- ・市立図書館では図書館業務のプロが育たない状況。職員研修を充実させ、専門的知識、技術の習得の援助を行う。（再任用）
- ・始動人育成という県計画の目的に合致した図書館サービスの提供は学校図書館が中心と考える。県立図書館がより踏み込んで学校図書館運営に関与できるように。（学校図）
- ・小中学校の図書館を強化することができれば、地域差なく学習環境向上が期待できる。（会年）

◆人材の在り方

- ・（高度専門的サービスの提供、市町村支援を行うには）県立図書館員の資質向上が不可欠。20年後を見据えた職員の採用・育成が必須。（行政）
- ・定期的な選考補充が行われておらず、特にレファレンススキルの継承が困難。（行政）

◆施設整備の在り方

<文書館との統合・再整備>

- ・文書館と一体となることでレファレンスの幅が広がる。（司書）
- ・レファレンスの専門性を高めるためにも文書館との機能統合・合築が望ましい。（会年）
- ・県域資料の最終保存館であるためには、文書館との統合は不可欠。（学校図）
- ・収集資料が一部重複し、同じく老朽化している文書館との併設が望ましい。（行政）

＜新館整備する場合の方向性＞

- ・（市立との合築でなく）単独での新館建設・移転を。現在地である必要はなく、非来館型利用の充実を前提として、あえて中心市街地から離れた場所にあってほしい。（学校図）
- ・書庫や駐車場のスペース確保を考慮すると、前橋・高崎ではなく図書館未設置町村などに移転することが望ましい。（再任用）
- ・一つの場所であらゆる機能が集約された施設に。（会年）
- ・見えない図書館になってよい。店構えは最低限のものでよい。（行政）
- ・「場」を作ることを期待されるなら、生涯学習センターとの統廃合もあり得る。（行政）

◆その他

- ・移住や転入の際に、教育施設が充実していることもプラスの要素として考慮される。（会年）
- ・県立図書館の機能等について、もっと周知に力を入れてよい。（会年）
- ・県立図書館の存在と役割について県民への広報の強化が必要。（会年）

（２）検討委員会の議論に、どのようなことを期待しますか？

- ・県立図書館が20年後も県民に必要とされる図書館になるよう議論していただきたい。
- ・目先の問題解決でなく、未来の県民が「あのかのときの検討委員会のおかげで今の県立図書館がある」と良い意味で語り継がれるような議論であってほしい。
- ・県の財政状況にあわせた、多くの県民が納得できる、現実的な議論になることを期待する。
- ・群馬県を外から見た客観的な視点と、県民の意向をバランスよく取り入れた議論を。
- ・現場の声を可能な限り反映した議論を。
- ・今回の議論は、行革の流れの中で発意されたもの。大胆な統廃合を提案してほしい。